

## 環境関連学会・展示会等における環境技術実証事業の普及について

### 1. 基本方針

- (1) 昨年度と同様に、費用効果的な広報活動を行うため、学会：4件、展示会：2件を対象とする。環境省が実施するものを含む
- (2) 展示会に関しては、実証機関や実証申請者と連携して出展し、実証済技術の実物も展示できるような体制ができないか、検討する。
- (3) 学会に関しては、発表時間や展示スペース等が限られていることから、学会予稿集原稿やパネル展示の「内容」については、事前に関連する実証機関へご相談させていただき、「当日説明」については、基本的に実証運営機関が対応する。ただし、実証機関や実証申請者と連携することでよりPR効果が見込まれる場合は、連携して対応する。
- (4) 出展者名は、可能な限り環境省と実証運営機関の連名とする。
- (5) 出展先の選定のポイントは以下の4点を中心に検討し、PR効果が高いと見込まれるイベントを、上記(1)の件数で選定する。

#### < 出展先選定のポイント >

関連する技術分野数

来場者数等(ETV事業に係る発表、ポスター等に関心を持つ見込みのある人数を把握できる場合にはそちらを重視)

実証機関や実証申請者のコミットメントの程度

その他、期待される効果等(昨年度出展先で特に効果が高かったもの、昨年度の検討において有用性が示唆されたもの等)

### 2. 具体的な出展先

12の学会及び13の展示会を出発点として、各実証機関への意見照会を行いつつ、上記<出展先選定のポイント>を踏まえ、具体的な出展先を決定した。

上記の検討を踏まえ、学会については表1に示す4イベント、展示会については表2に示す2イベントを選定した。環境省が実施するものを含む

表1 学会における具体的なPR方法

名称	PR概要
第22回環境化学討論会 (主催:日本環境化学会)	(開催期間) 2013年7月31日(水)～8月2日(金) (場所) 東京農工大学府中キャンパス (PR形式) ポスターセッション(講演要旨原稿を参考資料2-1、発表ポスター(予定)を参考資料2-2に示す。) (選定理由) 関連する技術分野数が4分野あるとともに、比較的来場者数が多く(700名超)、ETVに関心を持つ方の来場が一定程度見込めるため。
第21回地球環境シンポジウム (主催:土木学会地球環境委員会)	(開催期間) 2013年9月17日(火)～18日(水) (場所) 東北大学青葉山キャンパス (PR形式) パネル展示 (選定理由) 関連する技術分野数が3分野あるとともに、昨年度、平成24年度地球環境技術賞を受賞するなど、特に効果が高かったため。
第16回日本水環境学会シンポジウム (主催:日本水環境学会)	(開催期間) 2013年11月9日(土)～10日(日) (場所) 琉球大学農学部キャンパス等 (PR形式) 本部企画セッション (選定理由) 関連する技術分野数が4分野あるとともに、一昨年度、昨年度の出展に関して、関連技術分野の技術実証検討会座長より「事業の普及に向けて効果が高かった」との指摘をいただくなど、特に効果が高かったため。
平成25年度空気調和・衛生工学会大会 (主催:空気調和・衛生工学会)	(開催期間) 2012年12月13日(木)～15日(土) (場所) 東京ビックサイト (PR形式) 学術講演 (選定理由) 関連する技術分野数が2分野あるとともに、地中熱関係の特集等を行うなど、ETVに関心を持つ方の来場が一定程度見込めるため。

環境省が実施するもの

表2 展示会における具体的なPR方法

名称	活動概要等
<p>エコプロダクツ 2013 (主催: (社)産 業環境管理協 会、日本経済 新聞社)</p>	<p>(開催期間) 2013年12月12日(木)～14日(土) (場所) 東京ビックサイト (PR形式) 実証機関・実証申請者との共同出展(3小間分、詳細未定) (選定理由) 全技術分野に関連し、来場者数も多い(178,501名)とともに、実証機 関・実証申請者のブース位置等の調整も比較的容易で、一定のコミッ トメントを図ることができるため。</p>
<p>川崎国際環境 技術展 2014 (主催: 川崎国 際環境技術展 実行委員会)</p>	<p>(開催期間) 2014年2月14日(金)～15日(土) (場所) 川崎市とどろきアリーナ (PR形式) 実証機関・実証申請者との共同出展(3小間分、詳細未定) (選定理由) 全技術分野に関連し、昨年度の検討において有用性が示唆されている とともに、実証機関・実証申請者との共同出展を行うことにより、一定の コミットメントを図ることができるため。</p>